

大町市水道ビジョン（改定版）

【概要版】

計画期間：令和2年度～令和15年度

水道ビジョン改定の趣旨

令和2年3月に「大町市水道ビジョン」を策定し、安定的な水道水の供給に向けた対策を実施してきました。しかし、策定から5年が経過し、激動する社会情勢や経営環境の変化に伴い、当初の見通しと現状の間に乖離かいりが生じています。このため、これまでの施策を客観的に評価・分析した上で、将来像の実現に向けた軌道修正を行うため、本ビジョンの改定を実施しました。

水道の理想像及び目指す将来像

現在の水道事業経営は、「安全」「強靱」「持続」の3つの要素を満たすことが求められます。これを踏まえ、本市の水道事業については、「安全でおいしい水を将来にわたり安定的に供給できる水道づくり」を目指す水道の将来像として掲げ、その実現に向けて取組を進めていきます。



計画期間：令和2年度～令和15年度

水道事業の現状評価と課題

当初ビジョンの策定時に設定した実現方策及び主要事業について、進捗状況を確認するとともに、当初値・目標値と中間見直し時点の実績値を比較分析して、進捗状況の中間評価を行いました。中間評価の結果から、当初ビジョンの短期計画における取組を次のように総括しました。

● 中間評価の総括

(1) 安全な水の保障について

- 水質の保全については、水質や水量に大きな変化は見られず、安全な水道水の供給に懸念は生じませんでした。
- 施設の維持管理については、老朽化状況の監視を行い、定期的な点検と予防保全的な修繕を実施し、大きな問題が生じることなく、適切に管理しました。
- 緊急時の対策についても、計画期間をとおして防災計画の確認とそれに基づく訓練を実施しました。さらに、近隣事業者との連携も確認し、緊急時の対応力を確保しました。

(2) 危機管理への対応と徹底について

- 南平配水池の耐震化完了に続き、三日町配水池の整備に着手するなど、優先度の高い基幹施設から耐震化を進めており、段階的にですが、施設の安全性は着実に向上しています。
- 管路の耐震化についても継続して取り組んでおり、耐震化率は一定の向上を示しています。膨大な管路総延長に対して更新できる延長には限りがあるため、重要施設に接続する管路を優先するなど、計画的な更新に努めます。
- 有収率は、管路の老朽化が管路更新の効果を上回る形で進行しており、低下傾向となっています。今後は、緊急輸送路の老朽铸铁管の更新、重要施設に接続する管路の耐震化等を実施し、漏水量の削減と有収率の改善を目指します。

(3) 水道サービスの持続性の確保について

- 上水道では現在、収支が均衡しており、健全な経営が行われています。定期的に経営審議会による諮問を行い、料金算定期間における検討を実施しています。しかし今後は、給水人口の減少による収入減と、施設更新に伴う支出増が見込まれるため、経営環境は厳しくなる見通しです。こうした将来の変化に対応し、安定した事業を継続できるよう取り組んでいきます。
- 簡易水道は、地方公営企業法を適用して公営企業会計に移行しました。今後数年間は新たな会計制度の下で経営状況を分析し、現状の厳しい経営状況の改善に取り組んでいきます。

事業計画

具体的な事業内容及び実施予定時期は、以下のとおりです。

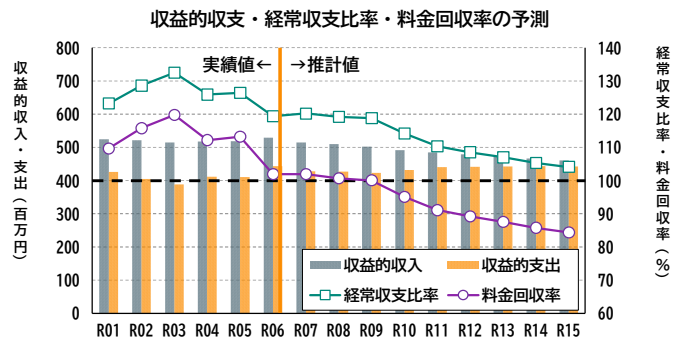
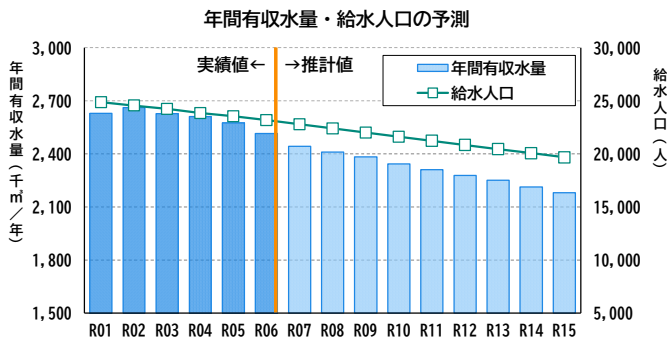
事業	区分	事業内容	工種	R02	R03	R04	R05	R06	R07	R08	R09	R10	R11	R12	R13	R14	R15		
				2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033		
上水道	安全	・クリプトスポリジウム等対策及び水源水質事業	・南平水源（膜ろ過処理）【完了】																
			・居谷里水源（紫外線処理）【完了】																
	強靱	・施設の耐震化	・南平配水池 Ve=90m ³ 【完了】																
			・三日町配水池 Ve=1,900m ³																
		・非常時の水量確保	・三日町配水池緊急遮断弁																
	高水圧及び低水圧解消	・常盤高区系減圧弁1か所（新設）																	
		・松崎配水系減圧弁2か所（新設）																	
		・第1配水系減圧弁1か所（新設）																	
	・機械装置及び電気計装設備の更新	・機械及び電気計装設備																	
		・管路の更新	・耐震化計画等による更新																
	持続	・施設の統合	・常盤低区系配水管φ75 L=393m（新設）【完了】																
			・常盤低区系減圧弁1か所（新設）【完了】																
			・崩沢系配水管φ150 L=2,750m（新設）																
	・管路の更新	・老朽管の更新																	
簡易水道	安全	・クリプトスポリジウム等対策及び水源水質事業	・産屋沢水源（石原送水ポンプ場）対策（膜ろ過）【完了】																
			・新行第1・2水源（新行配水池）対策（紫外線）【完了】																
			・宮の尾第1・2・3・中央水源（一の瀬配水池）対策（膜ろ過）																
			・東部第1・2水源（布川減濁槽）対策（紫外線）																
			・藤尾水源（菰浦配水池）対策（膜ろ過）																
			・土林水源（切久保配水池）対策（紫外線）																
			・水源の耐震化	・二重水源（井戸水中カメラ調査）															
	強靱	・施設の更新	・一の瀬配水池の建屋の更新																
		・機械装置及び電気計装設備の更新	・機械及び電気計装設備																
		・管路の更新	・耐震化計画等による更新																
	持続	・管路の更新	・老朽管の更新																

投資・財政計画

事業計画を基に経営状況の将来予測を行いました。今後の経営状況は、耐震化事業や老朽化対策を推進することで事業の支出が増加することになりますが、人口減少に伴って事業の収入は減少する見通しです。よって、水道システム全体の安定性を保ちつつ、健全な経営を継続するため、料金算定期間毎に料金水準の検証を行い、料金改定の必要性や必要な場合の改定率を検討します。

○上水道の経営の見通し

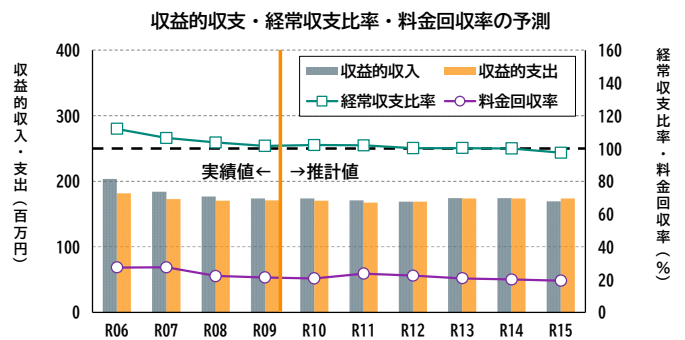
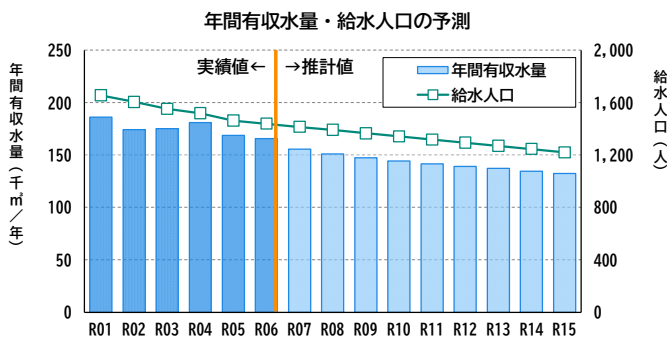
収入が減少し費用が増加するという見通しにおいては、損益赤字とはなりません。有収水量の減少と費用増加により給水原価が上昇し、料金回収率が100%を下回ります。今後も健全な経営を維持していくためには、料金回収率を100%以上とすることが求められます。これらの経営上の目標を達成するためには、事業収入の根幹となる料金の増収が必要であると考えられます。



上水道の経営の見通しグラフ

○簡易水道の経営の見通し

厳しい地理的条件にある簡易水道事業は、人口減少に伴う減収や施設等の老朽化など、深刻な構造的課題に直面しており、現状、一般会計からの繰入金により経営が支えられています。将来にわたり安定的な供給と持続可能な経営を維持するため、経営の効率化や施設規模の適正化を通じて、一般会計への依存度を可能な限り低減するよう努めます。あわせて、将来的な上水道との料金体系の統一や経営統合に向けた具体的な検討を推進します。



簡易水道の経営の見通しグラフ

推進する施策

ビジョンを実現するため、以下に掲げる3区分13項目の施策を推進していきます。

将来像	区分	基本目標	主要施策	具体的施策
安全でおいしい水を将来にわたり安定的に供給できる水道づくり	安全	安全で安心な水道水の安定的な供給	水道の水質保全	各水源における水質の保全
				水源水質及びクリプトスポリジウム等の対策
				水質監視・管理体制の強化
	強靱	災害に強い強靱な水道	災害時等の対策の充実	水道施設の計画的な耐震化の推進
				災害時における給水の安定性確保
				老朽化施設及び管路の計画的で効率的な整備・更新
	持続	水道サービスの持続	水道施設の計画的な更新	老朽化施設の計画的な更新
				有収率の向上対策
			将来経営の健全化	水道料金の適正化と財源確保
水道施設の効率的、効果的な管理運営				
簡易水道の安定した給水体制の整備	老朽化施設の計画的な更新	水道料金の適正化と財源確保		
		水道料金の適正化と財源確保		